

社会福祉法人 上越老人福祉協会

令和 5 年度 事業実施状況報告

社会福祉法人 上越老人福祉協会

目 次

1. 全体評価	P 1
(1) 収支状況（前年比）の状況	
(2) 法人創立50周年記念事業の実施状況	
(3) 法人の組織、機能の再編による強化	
(4) 高品質かつ安定的なサービス提供への取組	
(5) 人材確保・定着への取組	
(6) 課題別プロジェクトの進捗状況	
2. 各管理部の報告	P 5
(1) 総務部	
(2) 事業部	
(3) 財務部	
(4) 情報部	
3. 研修関係	P 7
4. 各事業（グループ）の報告	
(1) いなほ園グループ	P 10
(2) 新光園グループ	12
(3) 高田の郷グループ	14
添付（資料集）	P 16

令和5年度法人事業実施状況報告

1. 全体評価

(1) 収支状況（前年比）の状況

①法人全体の状況

収入は二つの特別養護老ホーム（特養）において利用率が好調に推移するとともに介護度が過去最高値（いなほ園 4.2、みずほ園 4.5）となり前年比で増加した。また老人保健施設（老健）は新たな加算算定と通所リハビリテーションの利用率の改善（前年比 20%）により収入は増加した。なお、新型コロナウイルス感染の影響による事業休止はいずれの通所サービス事業においてみられるも大きな減収には至らなかった。

また、グループホーム事業は物価の高騰に併せた利用料の改定により利用率が安定した事業では増収となった。但し、待機者管理及び確保についての課題が浮き彫りになり事業部が中心となって対策を検討した。

なお、前年度好調の小規模多機能居宅介護事業はどちらも利用率の低迷により大きな減収となった。

支出は前年に続きエネルギー費用の高騰もあったが法人及び各事業の節減計画及び取組そして法人事務局の定期評価の成果により消費量は前年比で電気 8,450 千円減（△11.67%）、ガス 6,505 千円減（△21.99%）となり支出の増加を抑えた。その他、職員ユニホームの管理（入替、洗濯方法）や教養娯楽品等について見直しをおこない 2,000 千円程度の費用を抑えた。

なお、エネルギー及び食材料費の高騰に対し、上越市及び新潟県より総額 36,159 千円の補助金の支給があった。

結果、これらの要因により当期資金収支差額 28,710,313 円、前年比 47,580 千円改善した。

なお、事業活動計算書のサービス活動収益は 2,478,495,709 円（前年比 1.07%増）、サービス活動費用は 2,443,642,883 円（前年比 0.14%増）、サービス活動増減差額は 34,852,826 円（前年比 187.01%増）と大幅な増益となった。

※参考（資金収支決算状況）	H30年度	59,656 千円
	R 1年度	45,599 千円
	R 2年度	80,590 千円
	R 3年度	46,005 千円
	R 4年度	△18,870 千円

②各事業の状況

2 特養（いなほ園、みずほ園）は利用者の状態変化時の早期対応と入院後の医療機関との退院調整をスムーズにおこない空床期間の短縮につながった。対して新光園は入退件数の増加により空床期間が増えた（前年比 303 日）ための利用率は低下した。また高田の郷では利用率は前年比で下回るも単位数の高い在宅復帰支援の加算の取得により下期以降は収入が増加した。なお、要介護度については3 特養とも平均 4.1 を超える高い水準を維持、取組の成果が見られた。

施設名	利用率	介護度（前年）	サービス活動差額（前年比）
いなほ園	98.3%	4.2（4.2）	12,739 千円（ 7,882 千円）
新光園	97.3%	4.1（4.2）	6,706 千円（△4,829 千円）
みずほ園	98.9%	4.5（4.3）	9,815 千円（ 1,238 千円）
高田の郷	96.5%	2.7（2.6）	8,072 千円（17,299 千円）

いなほ園デイサービスセンターは体調不良者の増加と居宅支援事業者との連携不足により下期以降の利用率は大幅に低下した。なお、新光園デイサービスセンターと共にコロナウイルス関連及び能登半島地震の影響により数日間の事業休止を余儀なくされ収入減に影響した。高田の郷通所リハビリは利用者数の増加により前年比で利用率を大幅に伸ばし収入増となった。

施設名	利用率	介護度（前年）	サービス活動差額
いなほ園通所	85.3%	2.0（2.0）	12,374 千円（ △418 千円）
新光園通所	85.6%	1.7（1.8）	12,899 千円（10,084 千円）
高田の郷	85.6%	1.3（1.6）	3,853 千円（10,030 千円）

なかよし寿の家、百寿の家は待機者確保の遅滞から退所から入所までの期間を要したため利用率は伸び悩んだ。なお、4 グループホームとも7 月より物価高に合わせた利用料改定により収入は増加した。

なお、小規模多機能型居宅介護はどちらも前年比で大きな減収となった。要因は利用者の確保はおこなえているがそれを上回る契約終了者が発生したため。なお、原因としては利用者の体調変化に起因するところが大きかった。

施設名	利用率	介護度（前年）	サービス活動差額
敬 寿	98.1%	2.1（2.7）	△7,373 千円（ 119 千円）
なかよし寿の家	97.0%	2.5（2.5）	1,376 千円（ △803 千円）
宝寿の家	98.7%	2.6（2.6）	△796 千円（ 820 千円）
百寿の家	97.0%	1.9（2.9）	2,930 千円（ 2,673 千円）
本町楽寿の家	91.8%	1.9（2.0）	△7,167 千円（△11,081 千円）
光寿の家	84.0%	2.5（2.7）	△841 千円（△8,377 千円）

(2) 法人創立50周年記念事業の実施状況

①創立記念式典（記念式および祝賀会）

年度当初に法人内職員による実行委員会を立上げ、理事長の指示を受けて実施に向けた計画と準備をおこなった。（当日）11月15日は来賓38名を含め出席者は100名を超える中、厳粛かつにより盛大に挙行された。

②創立記念事業（講演会）

12月3日、小平奈緒さん（元オリンピックスピードスケート金メダリスト）を招き記念講演会開催した。予約受付は初日で一杯となり当日の来場者は400名を超え盛会裡に終えることが出来た。

どちらも法人のこれまでのあゆみと今後の展開を内外に発信する機会として成功した。

(3) 法人の組織、機能の再編による強化

①組織再編

4月よりこれまでの経営管理者に副管理者等を加えた本部運営により課題に対して多角的な検討をおこなった。さらには組織に新たに法人規則及び規程を検討する委員会を設置し定年延長の取扱いや休職に関する就業規則等見直しをおこない法人の組織の基盤整備につなげた。

②機能強化

一部の小規模事業において新たに現場職員を兼ねた管理者を配置し現場を主体としたマネジメント体制を導入した。これによりサービス体制強化につながった。

③法人本部と各事業所との連携

大規模修繕、大型備品入替については事業管理者と本部事務局が機能および費用の面について他方面から検討、新光園の非常電源設備の入替の実施、高田の郷の空調設備入替計画の推進に成果を生んだ。

(4) 高品質かつ安定的なサービス提供への取組

①コロナウイルス対策

取扱分類の変更に併せ5月8日付で【上越老人福祉協会新型コロナウイルス法人指針】を作成、施設及び在宅サービスの取扱いと利用者および職員の感染時の対応を統一化した。その後も各施設において小規模な感染クラスターの発生もみられたがこれまでの経験を活かした適切な対応により大事に至らなかった。

②専門サービスの充実化

いなほ園に続き新光園、みずほ園においても歯科衛生士を配置し口腔ケアサービス体制を整備した。

またグループホームにおいては母体の管理栄養士による栄養管理体制を

構築し利用者サービスにつなげた。なお2つの通所事業では科学的介護情報システムの登録により加算算定開始した。

(5) 人材確保・定着への取組

①採用活動の結果

令和6年度採用計画に基づく活動の成果として介護職員6名（1名臨時）、看護職員4名（1名切替）、作業療法士1名（切替）を採用した。また、今後の外国人採用に向け法人内プロジェクトが中心となって監理団体の選定作業を進めた。これについては7年度以降の採用につなげていく。

②労働環境見直し

働き方改革プロジェクトでは現在の法人事業の労働内容や職員意識を把握するため介護、看護の職員を対象とした全数調査を実施した。調査結果は今後の良質な労働環境の構築に活かすと共に外部への発信をおこない、より良い人材の確保につなげていく。

③介護員養成研修の実施準備

令和6年度より上越保健医療福祉専門学校の後継として介護員養成研修及び実務者研修を開講するため所轄庁へ指定の届出を行う。年度内に許認可を受け令和6年度より介護員養成研修としてこれまで実施していた喀痰吸引研修と併せて初任者研修および実務者研修を研修機関として実施する。

(6) 課題別プロジェクトの進捗状況

①外国人就労プロジェクト

技能実習生の受け入れ調整機関となる監理団体の比較表を作成、それぞれ団体の特徴や費用面等について集約した。今後は監理団体の選定と受け入れ施設及び研修受講者の選定を行うとともに技能実習制度の改正に伴う新たな制度について情報収集を行う。

また技能実習生を受け入れるにあたり、雇用や在留資格の管理、担当者の選定とマニュアル作成等に関する情報収集をおこなった。今後はそれらについて準備スケジュールを立てて進めていく。

②働き方改革プロジェクト

介護職員並びに看護職員対象の働き方に関するアンケート調査を行う。

結果（一部抜粋）は以下のとおり。

なお全項目に対する回答率は介護職員 85.2%、看護職員 81%であった。

項目	介護%	看護%	考察
仕事全般に対する満足度	70	93	（介護）利用者との関り満足度は業務多忙から 62%に低下。
人間関係／コミュニケーションに対する満足度	88／85	85／96	（共通）上司の働きかけが要因と推察。法人の PR ポイント。

2. 各管理部の報告

(1) 総務部

①求人活動

県内の大学と養成校の訪問の他、法人主催の就職説明会を計3回開催、5名の参加者を採用に繋げることが出来た。その他、介護の仕事の魅力発信を目的として、高校生を対象としたワークショップを開催した。8名の参加者がありそのうち1名は採用につながった。

今後も対面の説明会の他に求人情報サイトなども積極的に活用し採用につながる情報発信および活動を継続していく。

次世代育成法に伴う行動計画として、男性の育児休業取得促進のため全職員を対象に育児休業制度に関する情報発信を行い男性の育児休業取得に繋げた。

②職場環境改善委員会の取組

各事業所や職域におけるストレス状況の定期的な確認の他、ストレスチェックを実施しグループごとに集計・分析を行い現状と課題の把握・共有に努めた。

③職種別連絡会の活動

代表者会議を開催し、法人からの指示・意思伝達の機会とした他、基本サービス研修と定期の指針の見直しについて予定通り取組むことが出来た。

(2) 事業部

①介護報酬改定等の取組

介護報酬改定及び運営基準変更に対応するため、事業ごとの管理者から構成する介護保険対策委員会を立ち上げ取組んだ。新たな手続き方法や文言の整理など、更新作業の理解と共有化が図れた。

②グループホームの待機者確保対策

管理者の作業分担により上越市内事業所への営業を実施した。また情報部との連携でインターネット広告(みんなの介護)に登録し情報発信を幅広く行った。なお生活相談員経験者のコツを取り入れた研修を複数回行い精度充実につとめた。

(3) 財務部

①資金管理と活用

大規模修繕等に備えた法人積立を継続して行う事ができた。今後も高額設備の更新が予定されるため継続して取り組んでいく。また資金計画にあげる設備の項目の見直しをいなほ園で行った。次年度はそれを基に他施設の資金計画も見直していく。

②収支状況の回復に向けた取り組み

収支に大きな影響を与えた物価高騰、水道光熱費・燃料費高騰への対応に取り組んだ。費用項目の洗い出し、評価したうえで支出の削減を行った。また、各施設で電気・水道・ガス・燃料の削減の取り組み、毎月確認と評価を行うことで使用量の削減につなげた。

(4) 情報部

①情報管理体制の見直し

D Xの推進に向けた取り組みとして、法人サーバの活用方法、アカウント(権限)の管理方法を見直し、昨年開始した運用範囲を拡大した。またI ネットメールの定期的な訓練により、定着状況を随時評価した。なお感染症発生の周知の他、大規模災害発生時等に広く活用された。総務部主催の求人活動における映像作成等、伴走的な役割を果たした。

②いなほシニアネット事業の定着

1年を通じHP上で法人50周年記念関連のアナウンス等を実施した。
SNSコンテンツ等、各種情報ツールの活用状況は以下のとおり

ツール	投稿・発行数	アクセス数	その他・特記
ブログ	70回		動画掲載も多数
Twitter	217回	フォロワー (537) いいね (4,541)	フォロワー増加数 250件
クックパッド	15件	延べ678,647回	R5年度 145,261回 レシピ保存 2,377回 つくれば 13件
広報誌	2回		下期は50周年記念誌 として作成

3. 法人研修（外部、職員）の状況

（1）法人内研修

実施日	研修名	対象者	講師及び内容	参加者
6/19 ～7/7	監督職研修 (OJT の基礎) *動画研修 個人ワーク グループワーク	法人内 監督職員	＜研修センター、研修委員会主催＞ ＜人材育成・OJT の基礎の基礎 藤本剛士＞ 職場における OJT の基礎やポイントを学び、研修で得た学びを他監督職員と共有、意見交換をすることで、より実践的に部下育成に活かすことができる。	46名
6/19 ～6/30	共通研修 (個人情報保護と プライバシー) *動画研修 個人ワーク グループワーク	法人全職員 (希望者)	＜研修センター、研修委員会主催＞ ＜個人情報とプライバシー ケアスタイルコンサルティング＞ 個人情報保護やプライバシーの考え方を学び、意識を高める。また、身近な事例を通じて、日常業務を振り返り、他職員と意見交換を行うことで、今後の業務に活かしていく。	102名
7/18 ～7/28	共通研修 (健康で働き 続けるために) *動画研修 個人ワーク	法人全職員 (希望者)	＜研修センター、研修委員会主催＞ ＜働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト こころの耳 厚生労働省＞ 健やかに働き続けるための「セルフケア」を学び、それぞれがメンタルヘルスに関する意識を高める。また、職員の相互理解を深め、働きやすい職場環境について考える機会とする。	177名
8/14 ～8/25	基本サービス研修 (感染症予防)	法人全職員	＜食事サービス関係職員連絡会主催＞ 様々な感染症や食中毒に関する意識を高め、知識を得る機会とする。	342名
9/4 ～9/22	基本サービス研修 (高齢者虐待)	法人全職員	＜介護職員連絡会主催＞ 虐待に繋がるおそれのある「不適切ケア」について学び、自身の行うケアサービスについて考える機会とする。	341名
10/10 ～10/24	基本サービス研修 (事故予防)	法人全職員	＜介護支援専門員連絡会主催＞ 危険予測、事故予防のトレーニングの機会とする。	346名
10/16 ～10/30	基本サービス研修 (褥瘡予防)	法人全職員	＜ソーシャルワーカー連絡会主催＞ 褥瘡予防に関する知識や技術を習得・再確認の機会とする。	346名

10/16 ～10/30	基本サービス 研修 (褥瘡予防)	法人全職員	〈ソーシャルワーカー連絡会主催〉 褥瘡予防に関する知識や技術を習得・再確認の機会とする。	346名
12/11 ～12/31	基本サービス 研修 (経口維持・ 経口移行)	法人全職員	〈看護職連絡会主催〉 誤嚥性肺炎の原因について理解する。	344名
1/9 ～1/22	基本サービス 研修 (看取り)	法人全職員	〈リハビリ連絡会主催〉 褥瘡予防に関する知識や技術を習得・再確認の機会とする。	337名
1/15 ～1/26	共通研修 (パーソンセンタ ードケア)	法人全職員 (希望者)	〈研修センター。研修委員会主催〉 〈小規模多機能型居宅介護 光寿の家 野口春雄管理者（認知症介護指導者） パーソンセンタードケアの知識や理解を深め、日 頃のケアを振り返る。また、パーソンセンタード ケアの理念に基づき実施されるケアマッピング を知る機会とする。〉	99名
2/26	スキルアップ研修 (ノーリフティン グケア)	法人全職員 (希望者)	〈研修センター。研修委員会主催〉 〈デイサービスセンター新光園 伊藤亜子 OT (日本ノーリフト協会 ノーリフトコーディネ ーター) 〉 ベッド周辺動作におけるノーリフティングケア の方法とケアグッズの使用方法を学ぶ。(実技演 習を含む)	48名

【評価】コロナウィルス感染症の5類移行を受け、法人内においても、グループワークを取り入れた研修を一部再開した。アンケート結果等による考察から、グループワークは自分自身を振り返る機会でもあり、他職員との意見交換の場として、多角的な視点で物事を捉える意味でも有意義と評価する。共通研修（パーソンセンタードケア）及びスキルアップ研修（ノーリフティングケア）は、昨年度から継続のテーマとなっており、さらに理解を深めることができた。

(2) 受託・指定事業研修

事業名	実施日	概要
新潟県認知症研修事業	R5. 6. 14～R5. 9. 1	認知症介護実践者研修 26 名
	R5. 10. 4～R5. 12. 22	認知症介護実践者研修 23 名
	R5. 11. 7～R5. 11. 8	小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 18 名
	R5. 12. 12～R5. 12. 13	認知症対応型サービス事業管理者研修 23 名
喀痰吸引研修事業	R5. 8. 2～R5. 9. 29	15 名

【評価】受託事業研修は計画通り実施、認知症介護実践者研修（10 月開始）は新潟県の要請により、昨年に引き続いてオンラインで開催した。他の研修については、感染症対策を行いながら対面での実施となったが、感染症による大きな影響はなかった。

2. 各事業（グループ）の報告

（1）いなほ園グループ事業実施状況

特 養	（利用率）98.3% （前年）97.5% （前年比 0.8%） ①利用率状況 ・入退所の件数は前年より7件減少（52件→45件）、空床期間も平均6.9日（目標7日）により目標利用率を達成した。また医療機関と定期的な情報共有や早めの状態予測による退院調整がスムーズに行われ、入院日数が前年比300日減少したことが高利用率の要因となった。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額12,739千円（前年比7,882千円） ・定期的に経費削減会議を行い取り組みの検討とその評価によって事業費の増額を抑えることが出来た。更に利用率が高率で安定していたため前年より増収となった。 ③サービス実施状況 ・管理組織の変更により事業次長がサービス管理及びマネジメントを行い効果的なサービスにつながった。また能登半島地震のため建物設備に大きな被害を受け一時的に利用者の生活に影響があった。しかし職員の初動及び関係業者の迅速な対応により速やかに復旧した。（能登半島地震によるいなほ園の被害状況とその対応について別紙にまとめる）
通 所 介 護	（利用率）85.3% （前年）88.0% （前年比△2.7%） ①利用率状況 ・上期は目標を上回った（90.8%）が、12月以降は能登半島地震と感染症による休業（計3日間）が影響し利用率は大幅に低下した。次年度に向けて新たな居宅介護支援事業所との関係づくりやサービス体制の見直しに取り組む。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額12,374千円（前年比△418千円） ・利用率の低下に伴い前年比で減少した。 ③サービス実施状況 ・8月から科学的介護推進体制加算の算定を開始した他、中学生の職場体験「夢チャレンジ」や高校生の職場体験、初任者研修などの受け入れを行い地域貢献、利用者交流の機会とした。
み の り の 家	（利用率）100% （前年）100% （前年比 0%） ①利用率状況 ・入居3件、退居3件、年度末待機者数21名と年間通して安定していた。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額5,065千円（前年比692千円） ③サービス実施状況 ・特養作業療法士の体操教室や栄養士の食中毒防止講座などを実施し介護予防や自立支援に繋げた。

米岡の郷	【みずほ園】（利用率）98.9 % （前年）98.6% （前年比 0.3%） ①利用率状況 ・5、6 月は家族との連携が不足し入院による空床ショートの利用が出来ず利用率が低下した。しかし退所に関する状態予測と入所事務を短縮した結果、空床日数が短縮し高利用率を維持することが出来た。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額 9,815 千円（前年比 1,238 千円） ・事務費は増加（前年比 246 千円）、事業費の削減と利用率安定のため。 ③サービス実施状況 ・新たに介護リーダーを配置し業務の確立と介護主任を含めた介護組織の役割分担を行い体制を強化した。 【光寿の家】（利用率）84.0% （前年）91.6% （前年比△7.6%） ①利用率状況 ・前年より新規登録者が 19 件と大幅に増加した（前年比 11 件増）一方、登録解除者は 20 件とこれまでで最も多く目標利用率を達成することが出来なかった。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額△841 千円（前年比△8,377 千円） ・利用率の低下と重度者の減少が収入に大きく影響した。 ③サービス実施状況 ・地区の防犯委員会や福祉活動推進委員会に参加した他、施設としてクリーン作戦や認知症サポーター養成講座の開催等地域活動に力を入れた。
なかよし寿の家	（利用率）97.0% （前年）99.1% （前年比△2.1%） ①利用率状況 ・入院者の増加（前年比 3 件増）に加え、医療機関と退院に関する方向性の確認に時間を要したため空床期間が長期化し利用率に影響を与えた。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額 1,376 千円（前年比△803 千円） ・加算算定や食費の増額を行ったが利用率が影響して前年比で減少した。 ③サービス実施状況 ・7 月から栄養管理体制加算の算定を開始した。管理栄養士による訪問、助言・指導により知識の習得、振り返りの機会として有効になっている。
宝寿の家	（利用率）98.7% （前年）97.4% （前年比 1.3%） ①利用率状況 ・退所が前年より少なかったことと、入院時に医療機関に対し状態予測や施設環境も含めた早めの情報提供を行い空床期間の短縮に繋がった。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額△796 千円（前年比 820 千円） ・利用率に伴い前年比で改善した。 ③サービス実施状況 ・外部評価受審のため自己評価、家族アンケートを実施した。その後訪問調査を受け、その受審結果を基に改善計画を立てて取り組んでいる。

(2) 新光園グループ事業実施状況

特 養	(利用率) 97.3% (前年) 98.0% (前年比△0.7%) ① 利用率状況 ・入退所件数は30件(前年比4件)、入院も35件(前年比11件)、伴う空床日数は年間で968日(前年比303日)発生し低下の要因となった。 ② 収支差額状況 ・サービス活動増減差額 6,706千円(前年比△4,829千円) ・非常発電設備入替に伴うアスベスト除去やガス配管の修理等の高額な修繕が続いたこと、及び人材紹介手数料の増加等により、事務費が前年比で4,702千円増となった。 ③ サービス実施状況 ・ICT機器等の導入によりケアサービス提供体制の変更を行った。業務の効率化と業務負担の軽減に繋がった。 ・能登半島地震により新光町3丁目町内会36名の避難を受け入れ居場所の確保、食事提供を行った。また入所者の避難に協力をいただいた。 ・3回目の福祉サービス第三者評価を受審、概ね高評価であった。指摘事項については改善の取組を開始した。
通 所 介 護	(利用率) 85.7% (前年) 83.2% (前年比2.5%) ① 利用率状況 ・新規30件、終了34件。感染症の影響、体調不良等によるキャンセルが多かったが振替利用の提案を積極的に行った。 ・能登半島地震による営業休止日は1日間と最小限であった。 ② 収支差額状況 ・サービス活動増減差額 12,899千円(前年比10,084千円) ・職員構成の見直しにより人件費が前年比6,052千円の減となった。 ③ サービス実施状況 ・療法士が自宅訪問やサービス担当者会議への参加を行い、状況把握や福祉用具の確認、提案を実施。また要支援者においては体操のレクチャーや生きがい作りの支援を行った。
百 寿 の 家	(利用率) 97.1% (前年) 96.9% (前年比0.2%) ① 利用率状況 ・入退所各7名、入院6名に伴う空床54日間が利用率に影響した。 ・家族の支援体制が脆弱な方についても積極的に入所を判断し利用率の改善につとめた。 ② 収支差額状況 ・サービス活動増減差額 2,930千円(前年比2,673千円) ・平均要介護度の変化(2.9から1.9)による減収要素はあるが、食費、光熱水費の増額によりプラスとなった。

	③サービス実施状況 ・栄養管理加算算定に伴い、新光園管理栄養士の指導で栄養面や調理のポイント、嚥下に関する情報などを共有しサービス改善につなげた。 ・能登半島地震では八千浦中学校に避難、町内住民の協力を得て階段昇降を行った。避難に関する課題は高齢者支援課に報告を行った。
千 寿 園	(利用率) 100% (前年) 99.7% (前年比 0.3%) ①利用率状況 ・入居 11 件、退居 12 件が発生したが適正な入退居管理から迅速な受入れを行った。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額△1,100 千円 (前年比△1,843 千円) ・年間複数回発生したコロナウイルス感染症に係る支出増 (時間外手当 1,196 千円増、消耗品 921 千円増) が主要因。 ③サービス実施状況 ・居室隔離などの対応期間が延べ 98 日間に及んだことにより、ADL や認知機能の低下が見られた。予防のため園内での軽運動のほかに介護保険サービス利用へ繋ぐなど、体力維持、健康保持に取り組んだ。
ケ ア ハ ウ ス 上 越	(利用率) 99.7% (前年) 100% (前年比△0.3%) ①利用率状況 ・入退居 5 件。入居希望者には見学を含め丁寧に対応し待機者の確保に努めた。また心身の状態低下による退居では、関係機関と連携し適切な転居先の確保に繋げた。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額△991 千円 (前年比△819 千円) ・老朽化に伴い建物や設備の故障が多く、修繕費が前年比 420 千円増加した。 ③サービス実施状況 ・体操や作品づくり、畑作業等による心身機能の維持に取り組んだ。また薬剤師や歯科医衛生士等による健康講座を開催し、入居者の健康意識の向上に繋げた。

(3) 高田の郷グループ事業実施状況

老 健 入 所	(利用率) 96.5% (前年) 97.8% (前年比△1.3%) ①利用率状況 ・加算型の維持に努めた結果、利用率目標には未達となった。加算型の要件となる入退所前後の訪問、在宅復帰支援に注力した。 ・法人内事業所との連携により、計画的な退所支援を行った。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額 8,072 千円 (前年比 17,299 千円) ・加算型移行による収入の大幅増に加え、事務費、事業費の支出を削減。 ・物価高騰によりおむつ、寝具代が増、電気代、消耗品費、修繕費は減。 ③サービス実施状況 ・10月より加算型へ移行したことに伴い、それぞれの職種において老健機能としての役割を果たすべく、連携を強化した。 ・ノーリフティングの活動を通じ、利用者にとって負担の少ないケアの実践と職員の腰痛リスク低減など働きやすい環境づくりに取り組んだ。
通 所 リ ハ	(利用率) 85.6% (前年) 64.7% (前年比 20.9%) ①利用率状況 ・利用定員枠を拡大して利用者確保に努め、上方修正した目標も達成した。 ・利用者満足度の向上と意識的な職員の関わりによって、キャンセル数が減少したことも好影響となった。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額 3,853 千円 (前年比 10,030 千円) ・利用率増に伴い収入が増加。支出は入所と同様の削減ができた。 ③サービス実施状況 ・利用者の在宅生活維持を意識したプログラムのほか、復職支援、利用者の状態変化に伴う福祉機器の導入支援、口腔機能支援など、個々の状態に応じた柔軟なサービス提供が利用実績に繋がった。
敬 寿	(利用率) 98.1% (前年) 99.9% (前年比△1.8%) ①利用率状況 ・入所7件、退所7件。グループ施設と連携し、年間を通じて高利用率を維持。入れ替り多く平均要介護度が低下2.0 (前年度は2.7)。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額 △7,373 千円 (前年比 119 千円) ・利用率微減及び介護度低下で収入は356 千円減少した。 ・感染症対応により、人件費、給食費、介護材料費が大幅に増加した。 ③サービス実施状況 ・職員の工夫により季節に即した活動を増やし、楽しみの機会を提供した。 ・栄養管理体制加算算定に伴い、管理栄養士による訪問や献立等に関する助言・指導を受け、サービスの向上に繋がった。

本町楽寿の家	(利用率) 91.8% (前年) 96.0% (前年比△4.2%) ①利用率状況 ・新規契約 22 名、終了 23 名、1 年を通じて入替りの多い状況が継続した。 ・病院からの紹介が増加した結果、医療依存が高い方への対応に苦慮した。 ②収支差額状況 ・サービス活動増減差額 △7,167 千円 (前年比△11,081 千円) ・平均要介護度低下と異動による加算の取り下げで収入が大幅に減少。 ・物価高騰により給食費が増加。電気代、修繕費が減少した。 ③サービス実施状況 ・若年者の対応や看取り、独居認知症利用者の対応には関係機関等と連携し、個々の状況・状態に合ったサービスを提供した。 ・感染症以降滞っていた地域交流を再開。防災訓練等への助言を受けた。
居宅介護支援事業所	①【給付管理数】 1,633 件 (前年) 1,584 件 (目標 1,680 件) ②【予 防 件 数】 423 件 (前年) 390 件 (目標 360 件) ③収支差額状況 ・サービス活動増減差額 2,325 千円 (前年比 1,593 千円) ・介護・予防給付管理数が共に増加し、安定的な収入に繋がった。 ④実施状況 ・事業所内会議を週 1 回開催した。各々の症例やサービス調整における課題等を分析・検証し、マネジメントの質向上に繋げた。 ・独居、高齢世帯や認知症、精神疾患等を有する利用者について、必要時に包括支援センター、民生委員、近所の商店への情報提供や情報収集を行い、地域での見守りの依頼、連携の継続依頼等を行った。
地域包括支援センター	①実態把握 406 件 ②予防給付 1,036 件(うち委託 576 件) ③総合事業 818 件(うち委託 259 件) ④収支差額状況 ・サービス活動増減差額 90 千円 (前年比 △207 千円) ・異動及びパート職員の採用により人件費が増加した。 ⑤実施状況 ・令和 6 年度以降の地域包括支援センター業務委託について、プロポーザルに応募した。結果、引き続き業務の受託が決定した。 ・上越市版地域包括ケアシステムの構築に向け、地域ケア推進会議を年 3 回実施した。地域特有の課題に対して、地域住民及び担当者と意見を交わし、課題解決と顔の見える関係を構築した。

(資 料 集)

【利用率】

①入所系

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	98.8	98.5	99.2	97.2	97.1	98.8	99.5	98.9	97.1	97	98.9	99.1	98.3	98.2
新光園	98.8	98.4	99.4	96.9	95.6	96.0	97.7	96.9	98.2	97.1	94.7	97.3	97.3	98.5
高田の郷	96.6	94.7	98	97.7	92.7	96.3	96.9	98.4	97.6	95.8	96.0	97.9	96.5	97.3
みずほ園	99.7	95.8	96.6	99.7	99.7	100	99.6	99.3	99.4	99.1	99.3	99.1	98.9	98.5

②在宅系(デイサービス・通所リハビリ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	91.0	95.2	92.4	90.3	86.8	89.3	85.3	86.2	78.9	77.4	78	72.3	85.3	90.0
新光園	84.3	84.4	88.4	90.8	87.3	86.8	85.6	84.9	81.6	79.9	87.9	85.9	85.7	88.0
高田の郷	73	86.3	90	87.9	81.1	85.7	85.7	89.6	83.4	83.2	91.1	89.7	85.6	85.0

③軽費・ケアハウス

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
千寿園	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
ケア上越	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	97	99.7	100
みのりの家	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

④グループホーム

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
敬寿	100	93.2	97.0	92.8	100	100	99.6	100	100	98.6	100	96.4	98.1	99.0
なかよし寿	95	93	95	100	100	100	100	97	98.0	98	98	89.6	97.0	99.0
宝寿	94	100	100	98	96	100	100	100	100	100	100	96.1	98.7	99.0
百寿	91.5	100	98.0	91.6	92	98	100	98	96.6	99.5	100	100	97.1	99.0

⑤小規模多機能型居宅介護

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
光寿	89.2	83.3	88.0	84.6	84.4	84.0	83.9	79.3	78.2	81.5	88.3	83.8	84.0	90.0
本町楽寿	91.1	98.4	91.4	84.3	87.5	94.4	100	92.6	90.1	89.6	92.5	89.9	91.8	90.0

⑥居宅介護支援事業(介護給付管理数)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	128	139	139	139	136	130	142	135	140	138	133	134	136	140

【要介護状況】

3月末日現在

事業所	要支援1,2(総合事業含む)	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均	前年度
いなほ園		1	1	13	77	43	4.2	4.2
新光園		1	3	10	35	30	4.1	4.2
高田の郷		19	25	32	18	3	2.7	2.6
みずほ園		0	1	0	11	17	4.5	4.3
いなほDS	19	23	19	20	7	2	2.0	2.0
新光園DS	27	20	25	14	5	2	1.7	1.8
通所リハビリ	22	14	12	6	2	0	1.3	1.6
千寿園	11	14	4	2	2	0		
CH上越	9	14	1	1	0	0		
みのりの家	3	6	2	0	0	0		
敬寿	0	1	6	2	0	0	2.1	2.7
なかよし寿	0	2	7	7	0	1	2.5	2.5
宝寿	0	0	4	4	1	0	2.6	2.6
百寿	0	6	8	3	1	0	1.9	2.9
光寿	2	9	6	4	2	2	2.5	2.7
本町楽寿	5	13	3	3	2	0	1.9	2.0

【リスク管理】

①事故発生状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	みずほ園	いなほDS	新光園DS	高田の郷DC	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	百寿	本町楽寿	光寿
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院	2	1	1	0	0	0	0	1	1	1	2	2	2	0	0	0
受診	11	14	15	4	1	2	0	7	4	0	5	4	4	0	0	0

②苦情受け付け状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	みずほ園	いなほDS	新光園DS	高田の郷DC	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	百寿	本町楽寿	光寿
ケア内容	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員対応	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
制度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1